

「日本・アジア文化と人間」プロジェクト研究報告

2014 Annual Report

'Japan and the Asia culture, and a human being' Research Project

梶山女学園大学文化情報学部教授

飯塚 恵理人

Erito Iizuka

「日本・アジア文化と人間」プロジェクトでは昨年度に引き続き、構成員がそれぞれメインテーマである「日本・アジア文化と人間」を踏まえ、各自の研究を継続遂行した。梅野研究員、富田研究員より下記の報告を受けたので、それに筆者分を加えて報告する。

梅野きみ子

1) 名古屋国文研究会(本学名誉教授梅野きみ子研究員主催)

名古屋国文研究会のメンバー(名古屋・京都・神戸など近隣からの女性研究者20名程)が、平成26年4月5日(土)、5月10日(土)、6月14日(土)、7月5日(土)、8月2日(土)、9月6日(土)、10月4日(土)、11月1日(土)、12月6日(土)、平成27年1月31日(土)、2月7日(土)、3月7日(土)のそれぞれ午後1時～6時まで、人間交流会館会議室において、『風葉和歌集』の注釈研究のための発表会を行った。18号までの『風葉和歌集研究報』は休刊とし、平成26年度以降の研究会の活動は、叢書出版のための原稿作成に切り替えている。『風葉和歌集』は、全18巻で、1408首を所収する物語和歌集であるが、まず巻六冬443首までを、四季の部として纏め『風葉和歌集新注

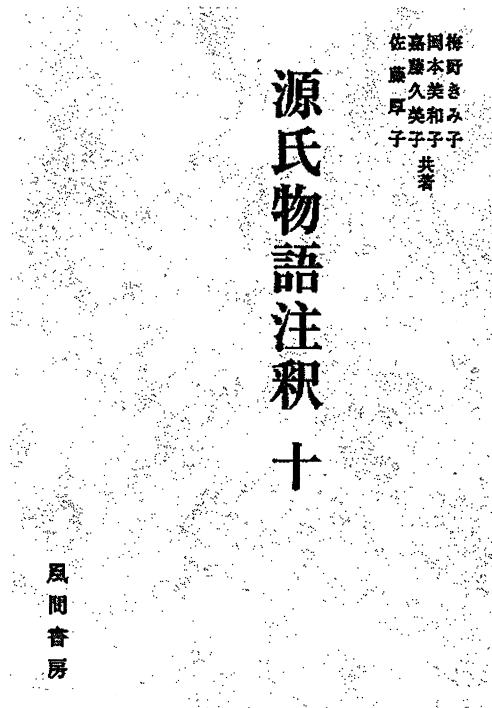
釈 上巻』とすることにした。既に、冬の巻388首までは読了済みであったが、残りの443首までを追加作成して、出来上がっていたそれらの原稿とともに、叢書の体裁に整えた。それらを10月末に青簡舎へ送り、刊行委員会の審査を受けた。27年1月末、審査の結果、1000頁にも及ぶ原稿となっていたため、四巻に分冊するよう助言を受け、方針を転換した。そして10月以降の発表会では、二巻のための巻七神祇・釈教の原稿作成をし、四季以降の歌の注釈も進めるという二本柱で、研究会を進めた。

以上の出版のための原稿は、安田徳子氏を中心になってとりまとめた。

2) 『源氏物語』の注釈研究会

(本学名誉教授梅野きみ子研究員主催)

本研究会では、風間書房からの共著『源氏物語注釈 十 早蕨一東屋』を平成26年10月15日に刊行した。本書は、梅野きみ子・岡本美和子・嘉藤久美子・佐藤厚子(梶山女学園大学教授)の4名の著者と、数名の協力によるもので、平成26年3月の出版を目指していた、遅延したものである。その後、平成26年10月4日(土)には、次の『源氏物語注釈 十一 浮舟



『一夢浮橋』と『源氏物語注釈 十二 索引』出版のための下打ち合わせをした。その結果、『注釈 十一』の出版は平成 28 年 6 月とし、完成原稿作成を平成 27 年 12 月末日とした。著者は、梅野きみ子、乾澄子、岡本美和子、嘉藤久美子、田尻紀子、宮田光、山崎和子の予定である。

富田和子

平成 26 年度は前年に引き続き、18 世紀以降、『近世後期以降の俳諧資料の収集と整理』（平成 23 年度採択科学研究費助成事業）を中心に、当該資料の収集と整理に努めた。この成果の中から、京の俳人・雑俳点者である雲鼓の門人の一人で、京に住み、雲鼓の吹簫軒（すいしょうけん）を継いで、18 世紀前半の享保期から寛延にかけて雑俳点者として活躍した雲鈴

（1674～1751）に着目し、「寛延三年地方会所本にみる雑俳点者雲鈴とその影響」（『東海近世』22 号 東海近世文学会 平成 26 年 7 月発行）をまとめた。そして、昨年に続き、「雲鈴撰会所本『冬至梅』の紹介と翻刻」（『椋山女学園大学研究論集』46 号 平成 27 年 3 月発行予定）をまとめた。

他に、東海近世文学会 10 月例会で、研究発表「柳亭雨人編『狂俳入門』と俳諧一狂俳句の推敲・俗談平話の理解」を行った。柳亭雨人は、大正期に活躍した小説家である中川雨之助のことで、新聞「新愛知」の連載小説「からくり蝶」などが、嵐寛寿郎や片岡千恵蔵らの主演で映画化された人物である。そして、この『狂俳入門』は、これまでに見ることでできた初めての狂俳入門書である。更に資料を蒐集し、論文にまとめたいと考えている。

飯塚恵理人

飯塚は昨年度に引き続き、所属する「メディアと古典芸能研究会」で平成 25 年度放送文化基金に募集のあった助成（課題：「昭和 20～30 年代前半の民放草創期放送音源等放送資料の収集保存とデジタルアーカイブ化」、助成額：80 万円、執行は平成 26 年度になる）に採択され、椋山人間学研究センターの本プロジェクト研究費と併せてラジオ放送開始期からテレビ放送開始期前後の民間放送の放送関係資料・附属劇団の関係資料の収集・整理およびアーカイブ化を行った。民間放送附属劇団関係資料の成果については、本誌「椋山人間学研究 2014」に「昭和三十年代『劇団 CBC』のラジオドラマ資料」として掲載している。